

住みやすい都市を気候変動対策で

つくっていくためのアイデアブック



海外ではどうやってるの 編



もくじ

住みやすい都市を気候変動対策でつくっていくこととは	03
はじめに	04
GX Creation Meeting	07
 環境と暮らしやすさを両立させるアイデア	 11
1. クルマのかわりに、空気と笑顔を	12
2. 木陰を増やして、都市の価値を上げる	14
3. 地域の手で、地域を回す	16
4. 都市は、建物たちのチームプレイ	18
5. それぞれの地区で取組みはじめる	20
6. 将来を描いて、アクションしていく	22
 さいごに	 24
出典	26
 住みやすい都市をつくるために活用できる国の制度	 27

住みやすい都市を 気候変動対策でつくっていくことは



はじめに

都市に住む私たち。

一見すると清潔で、便利で、楽しい日々を過ごしているように見えますが、今後も私たちみんなが、都市の豊かさを享受できるのでしょうか。子どもたちや孫たちは、私たちと同じように、豊かな都市の暮らしを楽しむことができるでしょうか。



都市の温室効果ガス* は、地球温暖化に甚大な影響を与えており、このままでは 10 年後には夏は毎日 40℃ 越え。集中豪雨や洪水も頻発してしまいます。CO₂ 排出量削減は、子どもたちに暮らしやすい都市を残すための大切な課題です。

経済成長と環境保護を両立させるにはどうすればよいのだろうか？

家にばかりいると孤独に感じるわがあるわ

主婦 ゆきえ (74)
猫 メル (13)



市職員
とおる (55)

夏の間は、「暑くて危ないから外で遊んじゃダメ」って学校で言われてるんだよね



小学生
あかり (8)



* 温室効果ガスは、温室効果を引き起こすガスを意味します。人間の活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素 (CO₂)、メタン、フロン類等があります。日本における温室効果ガス排出量のうち、二酸化炭素の比率が極めて高く、約 90% を占めています。

CO₂ 排出量実質ゼロ * に向けては再生可能エネルギーの活用だけでなく、私たちの活動の見直しも重要です。

海外では、環境と暮らしやすさの両立を目指すまちづくりが進んでいます。住みやすい都市をつくることで、結果的に環境にもアプローチしているのです。



子どもが遊べて、大人も
くつろげる場所がほしいわ

育休中 あや (36)
息子 ゆうと (1)



うちの会社では再エネは
使用してるけど

ニューアイデア社 代表
ともや (33)



住みやすい都市をみんなが享受するために、そして、次の世代へとつないでいくために、私たちが都市でできること、やりたいことは何でしょうか。

海外の都市がどんなことをしているのか、一緒にみてみましょう！

* 以降、「CO₂ 排出量実質ゼロ」は「CO₂ 排出量ゼロ」と記載します。

都市は気候変動対策に貢献できるポテンシャルがいっぱい！

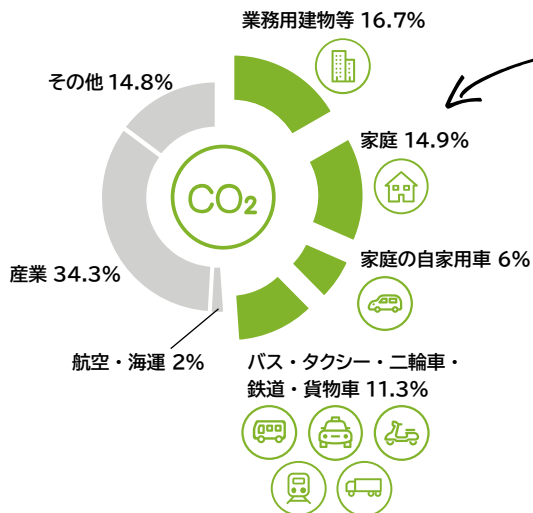
都市への人口集中は年々進み、2050年には、世界人口の約70%が都市で生活していると予測されています。

都市は、人・モノ・エネルギーが集中する場であり、日本でもCO₂排出量の約50%が都市内での活動に由来するものです。

同時に、人が集まる都市は、CO₂排出量ゼロに向けた新しいソリューションが生まれていく場でもあり、

都市での暮らしを変えることは気候変動対策を進めるうえでの大きな原動力になります。

CO₂排出ゼロに向けて都市での暮らしをどのように変えていけるか、世界各地で新たな取組が始まっています。



日本の都市由来のCO₂排出割合¹

CO₂排出量のうち、都市内での排出が全体の約5割を占めています



GX Creation Meeting

国土交通省では、国内でカーボンニュートラル*× 都市政策に取り組む人材の交流・融合・育成を促進し、新たなムーブメントを創出するきっかけづくりを目指し、連続セミナーを開催しています。令和 6 年度は諸外国の都市の取組について、有識者、当該施策に携わる実務経験者を講師に招き、海外都市の取組・知見について学びました。



令和 6 年度の下半期に計 6 回開催し、合計で約 2,600 名が参加しました。会場では、少人数グループでのディスカッションを実施し、毎回白熱した議論が行われました。

*カーボンニュートラル（Carbon Neutral）とは、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量から温室効果ガスの吸収量を差し引いた合計がゼロの状態を指します。ネットゼロとも呼ばれます。



勉強会の講演内容はウェブサイトにて公開しています。
ぜひ一度見てみてください！



各回のポイントをグラフィックレコーディングとしてまとめました！(GX Creation Meeting ウェブサイトにて掲載)



言葉だと流れちゃうけど、イラストだと頭に残るね。うちのまちのイベントでもやってみよう



セミナーでわかった! //

海外都市の施策にみる、取組のポイント



目的であり手段

“環境”は目的であり手段にもなる。都市のモビリティ、健康、地域経済の活性化など、地域の社会経済の課題と環境課題に一体的に取り組むことがポイント



トップダウンとボトムアップ

首長や議会、幹部のリーダーシップと、住民・市民主導の実践によるボトムアップの取組の組み合わせで進める



まちの構造・移動、建物・街区、緑

都市が環境政策に取り組む主な着眼点は
都市の構造、交通、建物、緑（グリーンインフラ）



ストーリーと見える化

取組や効果の見える化が大事。
でも数値にとらわれすぎず、ストーリー作り・発信も大事



住民と一緒に

計画策定から施策の実施まで、地域に住む人たちと一緒に取組む

新たなまちづくりの可能性を探るために、霞ヶ関から飛び出し、カーボンニュートラル実現に向けた共創の学びを実践しました。



様々な地域・分野の講師が、海外のリアルについて熱い講義を届けてくれました。

みんなで車座になって、
気張らないフラットな
議論ができていいのか。
場づくりも大切なんだなあ。



自由な議論ができるような工夫が
ちりばめられた円形の会場。
参加者同士のグループディスカッション
は、毎回議論が盛り上がり、
話足りないという声が続出でした！



海外から学ぶ

環境と暮らしやすさを 両立させるアイデア



1

クルマのかわりに、
空気と笑顔を



4

都市は、
建物たちのチームプレイ



2

木陰を増やして、
都市の価値を上げる



5

それぞれの地区で
取り組みはじめる



3

地域の手で、
地域を回す



6

将来を描いて、
アクションしていく

安全

住環境

健康

学校前を歩行者専用

フランス・パリ

パリでは、2014年に市長によって、「学校前道路整備」がスタートしました。

身の回りの場所から自分たちのまちを美しくすることを目的に、市内の169の幼稚園や小学校前の道路の車両通行を禁止し、歩行者専用道路にするプロジェクト。歩行者、子ども、高齢者等の弱い立場にある人にとって道路をより安全なものとすることを目的として実施されました。

同時に、車の交通量減により、大気汚染の解消、CO₂排出量削減も期待されます。

こんな道なら登下校が楽しみになりそう！
私のまちは歩道が狭くて、前を向いて
一列で歩かないと先生に怒られるんだよね。



4



Before

1



After

2



3

家計支援

移動

健康

自転車、公共交通そしてカーシェア

デンマーク・コペンハーゲン

健康増進、大気汚染防止、交通渋滞緩和等の観点から、自転車による移動は世界中で注目されています。コペンハーゲンでは自転車道の整備、電車・バスとの接続性の改善、まちなかでのレンタサイクルの拡充などの包括的な取組が進んでいます。

また、2025 年までに CO₂ 排出量ゼロをめざすため、コペンハーゲン市は、カーシェアリングの普及・電化を広げています。カーシェア用駐車場の増設のほか、市の車もカーシェアとして住民と共有し、2027 年までにすべて電気自動車にしていく取組を進めています。

コペンハーゲン市内の
電車への自転車持ち込み



市が推進する
カーシェアリング



健康

安全

景観

人の歩く空間を広げる

フランス・アンジェ

人口約 15 万人のアンジェ市は、LRT やバスなど公共交通を充実させています。また、車が減った道路や駐車場を、人が集まれる広場に変えています。そこでは地元の市場なども開かれ、まちがにぎやかになっています。



Before



After

行政でカーシェアを
置いてくれるのね！

車を持たなくても
生活できそう！



健康

住環境

防災

ウォーカブル × 緑でさらに進化

スペイン・バルセロナ

バルセロナ市では 2012 年から段階的に、住宅が集まるエリアで車の通行を制限し、住民が安心して過ごせる空間をつくっています。

まちなかの緑地の拡大は、暑さ対策、地面へ雨をしみこませ洪水を減らす効果も狙っており、少しでも快適に暮らせる戦略の中核をなしています。

バルセロナの取組により、歩行者中心の空間にするとレストランや小売店の売上が上がることがわかっています。³



歩行者に優しいと
消費意欲も高くなる
ということか！



緑でまちを冷やす

オーストラリア・メルボルン



森林火災が度々発生するオーストラリア。持続可能で住みやすい都市を目指し、公共空間の樹冠被覆率（木が覆っている面積の割合）を2040年までに40%増加させることや、樹木の健康状態を改善することなどに取組んでいます。¹

木が建物に日陰を与えることで、エアコンなどの電気代削減が見込まれるほか、木陰が太陽光や熱を遮るので建物・道路の長寿命化にも役立ちます。

また、樹冠被覆率が10%増えると不動産価格が1.2%上がるというデータもあります。さらに、緑豊かなショッピングエリアでは、ショッピング客の消費額が10%程度増えることや、訪問頻度・滞在時間も増える傾向もわかってきました。³



エアコン代を
下げられるのは
ありがたいわあ



地域経済 資源循環

都市のなかで資源もお金も循環させる

オランダ・アムステルダム

アムステルダム市は 2050 年までに、すべての資源を循環させることを目指しています。たとえば建物は、将来取り壊すときのことを考え、再利用しやすい素材や設計方法が取り入れられています。こうした新しい方法が、新しい仕事や市場を生み出しています。

また、「Amsterdam Made」という制度をつくり、地元の企業が協力して、地元産の素材を使った製品に品質ラベルを与える取組も進んでいます。

資源を何度も再利用することで、新たな資源の採掘や製造、移動にかかるエネルギーや CO₂ 排出量を大幅に減らせます。地域経済の活性化と気候変動対策が両立しており、持続可能な暮らし方のモデルとして注目されています。

企業が連携して CO₂ 排出削減に取り組んでいるのか！



1



2

アムステルダム市のサーキュラー戦略



3

低所得者バス保有者向けの衣類補修の割引提供

市民農園で地産地消

米国・シアトル / イタリア・トリノ

シアトル市は 1973 年から、市内約 90 か所で市民農園を運営しています。そのうち 60 か所では、収穫した野菜や果物を生活に困っている人々へ無料で配っています。2023 年には約 15 トンもの作物が寄付されました。¹ 地元で食料を生産・消費することで、輸送に伴う CO₂ 排出量を抑えることができます。



シアトル市での市民農園での活動

地域おこしのイベント
とのコラボレーションが
できそうだな



トリノ市のドーラ公園で開催された国際フードマーケットの様子

人口減少が進むイタリアのトリノ市では、使われなくなった工場跡地を市民農園やフードマーケットの会場に変えています。市民が地域内で食をまかなうことで、食料の輸送による CO₂ 排出量を減らせるほか、緑地の増加はヒートアイランド現象の緩和にも効果があります。こうした取組が地域活性化と気候変動対策を同時に実現しています。

地域経済 雇用創出

建物の省エネと地域価値創出

英国・ロンドン、地方都市

ロンドンでは、設計から建設、運用、解体まで建物の一生で排出される CO₂ 量を 2040 年までに実質ゼロにする 것을目指しています。

ある再開発プロジェクトでは、古いビルを壊して新しく建てる際、鉄骨やコンクリートを再利用しました。こうした取組により、建設過程の CO₂ 排出量を大きく抑えたほか、工事に関わる 10% を地元の人とすることで、地元の雇用創出にも役立ちました。さらに、一般的なオフィスビルより約 50% 少ないエネルギーで稼働します。¹

公共駐車場にエネルギー設備を併設かあ！
ビルの地下に置く以外のやり方もあるんだなあ。



人口約 10 万人の地方都市ウォーキング市では、2001 年に公共駐車場にコージェネレーションシステム*を設置し近くの公共施設に電気と熱を供給しています。通常よりもエネルギーを効率的に使うことができ、結果として CO₂ の排出量削減と災害による停電時のエネルギー供給の両方に貢献しています。



2



3

公共駐車場のコージェネシステム

*コージェネレーションシステムとは、電力と熱を同時に生産し供給する設備

リノベーションで景観向上

エストニア・タルトゥ

人口約 10 万人のタルトゥ市は、CO₂ 排出量削減に積極的に取り組む都市のひとつです。1950-60 年代に建設された古いアパートの改修プロジェクトを行いました。EU の支援で、断熱材や省エネ照明、太陽光パネル、スマートメーターなどを取り入れ、エネルギー消費を大幅に減らしました。

建物の外観にはアートを施し、まちの魅力も高めています。断熱や再エネの導入によって冷暖房でのエネルギー使用量を減らすことができ、日常生活における CO₂ 排出量を削減。住民の光熱費削減や暮らしの質向上にもつながっています。



アパート改修パッケージ

エネルギー消費を大幅に削減するため、断熱材、省エネ照明、太陽光パネル、スマートメータ、スマートホームシステム、三重ガラス窓などが導入されました。



改修されたアパートの正面や壁面には、建物の美観と個性を高めるために、魅力的なアートワークが施されました。都市の公共空間を豊かにすることにもつながっています。

おしゃれな建物で
まちも明るくなるねえ



住環境

地域経済

認証制度をつかって地区整備を三方良しへ

フランス・グルノーブル

フランスでは、環境・社会・経済の3つに配慮したまちづくり「エコカルティエ」という国の認証制度があります。この認証制度には、省エネ、再生可能エネルギー利用、リサイクル、気候変動リスクへの対応などが評価項目に含まれています。さらに、環境配慮だけでなく、地域社会や経済的な課題の解決も目標に含まれています。

例えば、グルノーブル市の、工場跡地再生プロジェクト「ZAC de Bonne」。緑地の整備や、地下水や太陽熱を使ったエネルギーシステム、公共交通の整備などを行いました。移動手段の見直しや建物のエネルギー効率向上によって、地区全体での CO₂ 排出量削減が期待されます。そして、これらの取組を通して、雇用や地域産業の活性化にもつながっています。エコカルティエの目標の通り、環境・社会・経済の三方良しとなっています。



評価項目や枠組みだけ
決められていて、何をするかは
地区次第、ということか。



1



2

エコカルティエ認証を受けた「ZAC de Bonne」

地区単位での気候変動対策推進

米国

アメリカでは、「ジャストコミュニティ」と呼ばれる地区単位のプロジェクトを通じて環境負荷の小さい都市をつくる取組が進められています。

ペンシルベニア州のシャープスバークでは、大気汚染対策という課題に対応するために、太陽光発電やその他代替エネルギー生成などに取組んでいます。また、リアルタイムの空気質モニタリングを導入し地域住民の意識向上を試みています。

さらに、住宅の省エネ診断を無料で提供。診断結果に応じて断熱のアドバイスなども行っており、特に低所得世帯を優先しています。家庭でのエネルギー使用を見直すことは、日常的な CO₂ 排出量削減に直結します。環境と経済の両立を目指した取組です。



シャープスバーク公営図書館の敷地内に設置されている大気汚染の測定器

電気代節約の方法を
教えてもらえるなんて
助かるわ



計画プロセス 住民参画

市民の声を集めてまちのビジョンを作る

米国・ポートランド

人口約 65 万人のポートランド市は、米国で最も住みたい都市として知られています。しかし、かつては工業化による公害に悩まされていたなかで、長年かけて住みやすい都市へと変容したという過去があります。この長年の取組において、「自分が思い描く『何か』を具現化する努力（ビジョン）」が重要視されています。

「2035 年ビジョン」は、3 年間かけ約 2 万人の市民との対話を重ねながら 2018 年に策定されました。このようにポートランドでは、市民と一緒に、CO₂ 排出量ゼロに向けた目標策定を含む長期的な戦略検討を行っています。市民が考えるからこそ、暮らしやすさの観点がベースになっているのです。¹



2035 Comprehensive Plan 表紙



行政から押しつけられる計画
じゃなくて、自分たちの思い描く
まちをビジョンにするのね。

環境にいい暮らしのほう
がカッコイイよね。



気候変動を柱の一つにすえた総合計画

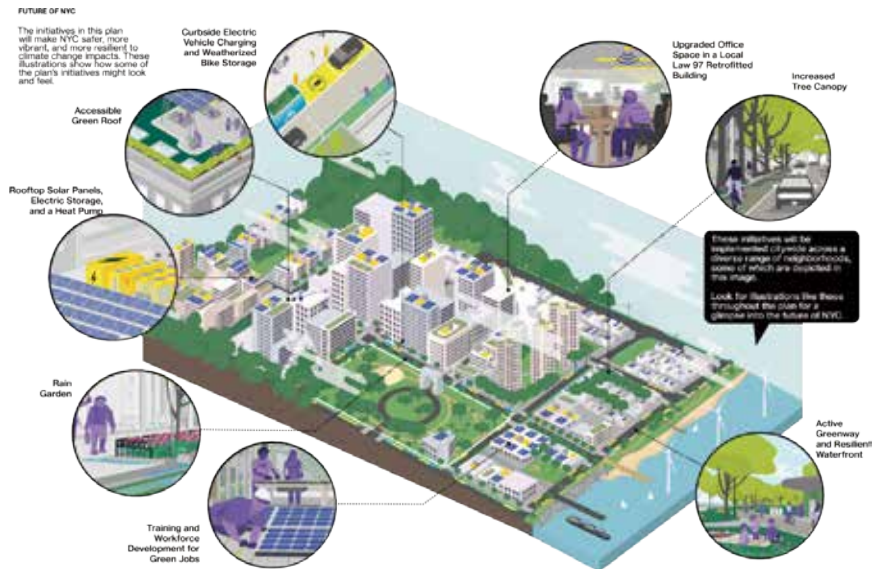
米国・ニューヨーク、サマビル

ニューヨーク市では、都市の将来についての「総合計画」をつくり、市がどんな行動をとるか、どんな目標を目指すかをはっきりと決めています。この計画は 4 年ごとに見直され、2024 年版では「気候変動や災害からまちを守る」「暮らしの質を高める」「環境にやさしい経済を育てる」という 3 つのテーマが中心になっています。¹

この計画では、CO₂ 排出量削減のほかに、地域の人たちがどのようによりよく暮らせるか、そして気候変動にあまり関心のない人たちにもどうやって関わってもらうか、といったことも大切に考えられています。

ニューヨーク市では、毎年この計画がどれだけ進んでいるかをレポートにまとめ、必要に応じて内容の見直しも行っています。こうした仕組みによって、計画が「作って終わり」ではなく、実際に役立つよう工夫されています。

いろんな環境の取組があるとして、「どこで何をやるか」空間的に位置づけていくことは、まちづくり担当者の役目なんだろうな。



「未来のニューヨーク市」イメージ図

さいごに

いかがでしたでしょうか。

海外の環境と暮らしやすさの両立させるまちづくりを学び、日本でもできることがあるように思いました。

住みやすい都市をみんなが享受するために、そして、次の世代へとつないでいくために、私たちが都市でできること、やりたいことは何でしょうか。

このブックレットが、市民や自治体の皆さんが、より一層豊かな都市をつくり、次世代に残していくための議論のきっかけとなることを願っています。



自分の事業でも、
環境の観点から
新しいビジネスができそう。

歩行空間化が日本でも
もっと進んでくれたら、
安心して子育てできるまちになるわ。
それが環境にもいいなんて、
まちづくりって面白わね。



まずは、うちの役所では、
環境担当とまちづくり担当の
ディスカッションをしてみようかな。



私のまちではどんな
取組が進んでいるか
調べてみよう！



市民農園ならうちのまちにもあるし、
これが増えれば気候変動対策に役立つのね。
気候変動の影響は遠い未来じゃなくて、
もうすでに起きている現実だったのね。



出典

ページ	注釈番号	出所情報
6	1	環境省・国立環境研究所「2023年度の温室効果ガス排出量及び吸収量（詳細）」（2025年4月）をもとに国土交通省都市局都市環境課作成
12	1～4	パリ市ウェブサイト「Plus de 200 «rues aux écoles» dans Paris」(Credit: 1、2、4: Christophe Belin / Ville de Paris、3: Joséphine Brueder/Ville de Paris)
13	1	コペンハーゲン市「Mobilitsredegørelse 2023」
13	2	コペンハーゲン市「Action Plan for Green Mobility Short Version」
13	3	アンジェ市「Places Académie et Kennedy Synthèse des Contributions Citoyennes」
13	4	アンジェ市「Angers, Ville à Vivre」(Credit: Sebastien Bazille - Guillaume Sevin)
14	1～2	バルセロナ市ウェブサイト「Superilla de Sant Antoni」
14	3	東京大学先端科学技術研究センターウェブサイト「街路の歩行者空間化は小売店・飲食店の売り上げを上げるのか、下げるのか？～ビッグデータを用いた経済効果の検証～」
14	4	バルセロナ市「Urban Mobility Plan of Barcelona PMU 2013-2018」
15	1	メルボルン市「Urban Forest Strategy Making a Great City Greener 2012-2032」
15	2	メルボルン市ウェブサイト「Printmakers Lane」
15	3	ポートフィリップ市「Greening Port Phillip Street Tree Planning Programe 2017-2022」
15	4	メルボルン市ウェブサイト「Tree management」
15	5	メルボルン市ウェブサイト「Greening laneways」
16	1	アムステルダム市「Amsterdam Circular 2020-2025 Strategy」
16	2～3	アムステルダム市「Implementation Agenda for a Circular Amsterdam 2023-2026」
17	1	シアトル市ウェブサイト「About the P-Patch Program」、シアトル市「P-Patch Community Gardening」
17	2	シアトル市ウェブサイト「P-patch gardening, Garden list, Broadway Hill」(Credit: Mark Marogil)
17	3	シアトル市ウェブサイト「P-patch gardening, Garden list, Beacon Food Forest」(Credit: Jonathon H. Lee)
17	4	Terra Madre Salone del Gusto ウェブサイト (Credit: Alessandro Vargiu / Slow Food Archive)
18	1	Waterman Group「Edenica - 100 Fetter Lane」
18	2	Waterman Group「Edenica」プロジェクトウェブサイト
18	3	Woking Borough Council「Woking Town Centre Masterplan」
19	1～2	SmartEnCity ウェブサイト「Tartu retrofitting package」
19	3	Interreg North-West Europe「Energy Retrofitting in Tartu, Estonia」(Credit: Silver Siilak)
20	1	フランス政府ウェブサイト「L'ÉcoQuartier livré」
20	2	フランス政府「Sustainable Planning Guide」(Credit: Lulu Images La Mekanoweb)
21	1	Sharpsburg Neighborhood Organization ウェブサイト「Sharpsburg Community Research & Data Dashboard」
22	1～2	ポートランド市ウェブサイト「2035 Comprehensive Plan and supporting documents」
23	1～2	New York City Mayor's Office of Climate & Environmental Justice ウェブサイト「PlaNYC: Getting Sustainability Done」

住みやすい都市をつくるために 活用できる国の制度

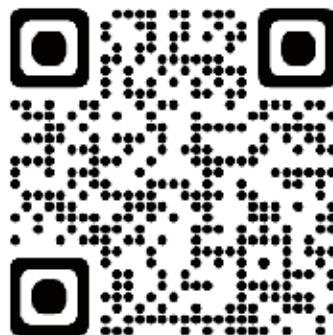
都市政策の支援制度



クリックして
ページを確認

国土交通省
都市行政におけるカーボンニュートラル
取組支援制度

国全体の支援制度



環境省
脱炭素地域づくり支援サイト
支援メニュー

いろいろな支援が
あるんだニャ //





問合せ先

国土交通省 都市局 都市環境課

TEL : 03-5253-8295

MAIL : hqt-toshikankyo@ki.mlit.go.jp